

④

飲食

鈴木陽美選

生命の維持に直結する飲食は、暮らしに喜びや慰めももたらす。
飲食の歌の素材と場面の豊かさを味わいたい。

【飲食】

飲食おんじきの音はかなしも朝の日のゆたかに注ぐ窓際にして

【米】

山に来てあけび食べつつ昼久し握食ひすびは腰にぶら下げしまま

あけて待つ子の口のなかやはらかし粥運あはぶわが匙しに触れつつ

うぐひすの声とのはぬ此このの朝赤飯あかこの柔かき豆もだし食をす

まぶた閉ざしやりたる兄をかたはらに兄が残しし粥あじをすすりき

豆まめごはんふつくらと炊く人として裏口に吹く麦秋の風

新潟は佐渡の黄金こがねの稔り田のひと雫なりこの白飯しろいむは

三日目の炊飯炊飯ジャヤーの干飯ほしいいにお湯を注げば思い出す 君

【パン】

ひとりゐてトーストたべるわが姿ひとよ見るなど思ひつつをかし

佐佐木由幾 『半窓の淡月』 1989年

樫一郎 『且つ耕し且つ歌ふ』 1943年

五島美代子 『丘の上』 1948年

佐佐木治綱 『続秋を聴く』 1960年

竹山広 『とこしへの川』 1981年

坪内稔典 『豆ごはんまで』 2000年

馬場昭徳 『マイルストーン』 2009年

佐佐木定綱 『月を食う』 2019年

片山広子 『野に住みて』 1954年